劇画家残酷物語
泣き虫金太
安部慎一

これは
月刊マンガ誌
ジローに
月一本劇画を
かいている
自称
劇画家の
物語です

なぜ自称かと
いいますと
ジローは少部数
しか出ていませ
んので………
稿料も安く

一ページ千円
ですから
二〇ページ
かいても………
一ト月は生活して
いけません

そこで
ふつうの者
ですと………
バリバリかいて
ほかの劇画社
にも見てもらう
のですが………

この者は
月一本かくと
ぐったりと
して………
そんな様子も
見えません

年令は三十
名前は公太郎と
しておきましょう

若いとはいえ
怠惰に暮していれば
体も弱って来ますし
荘

母親や周囲の者に
迷惑をかけている
と知っていますから
苦しむわけです

要は親孝行
する気になれば
よいのですが………
なかなかその気に
なれないよう
です
バー

一体どこに
原因がある
のか………
読者とともに
ひとつ彼の
過去を振り返って
みましょう

公太郎は
幼稚園で
泣き虫金太と
いうあだ名
だったそう
です

なぜそんな
あだ名になった
かと云うと………

公太郎が生まれて
まもない頃
大事な処を猫に
引っかかれたと
いう話からです

ほんにあの時は
死ぬかと思ったよ
猫に金玉かじられて
女の子のように
めそめそする子に
なった………
………
これを聞いた
友達が幼稚園で
このことを
云いふらしたからです，

幼稚園はカトリック
だったために
公太郎は何かを
云うとすぐに
神さまと
呼ぶ子になりました

この子はいつも
泣きヅラして
たよりない処が
ほんに父さんに
似てる

母親のそんな
いたぶりにも
また涙ぐみ……

ええいっ
あっちいけ
コケが付く
うわーん

これこれ
誰が泣かせ
ましたか

こいつだよ

友だちの乱暴にも
口ごたえできない

体の大きなわりには
まったく………
花や小動物………
雲や土を仲間と
思うような………
温和な子供で
あったわけです

神さま
私はどうしてすぐ
涙が出るので
しょうか?

どうしたら
母が好むような
強い人になれる
のでしょうか?

気の弱い彼は
しばしば母の夢を
見ました
ううっ……
苦しい……
助けて………

お前のような
グズを産まなければ
良かったのだ
お母さん
強い子になるから
助けて………

夢を見た朝は
なんだかお母さんが
他人のように
見えました

お父さんは
麻雀・お酒の
好きな普通の
会社員………

見た目には
あきらかに
カカァ天下

まことに
カカァ天下の
子供に与える
影響は大きい
ようです

公太郎は
次第に母親の
魔力(?)に
支配されて

小学生頃には
時々ガラッと
人が変わった
乱暴者に
なりました

要するに母親が
怖かったのだと
思われます

母親の云い分はこんなもんです
どいつもこいつも女のくさった様な奴ばかりで………女を一体何だと思ってやがる

掃除・洗濯食事の仕度………何の楽しみもないじゃないか
女一人を幸福に出来ない能ナシ亭主………

と云う具合でまあヒステリィと思えば良いのですが………

子供のことで………真剣に考えるわけです

なんとか強い男になりたいと思うのでしょうか中学時代は柔道の選手もしましたが………

夫婦の不仲は一向におさまらず公太郎が高校のときには遂に離婚してしまいました

体の大きくなった
公太郎はその頃から
母親に反抗する
ようになりました

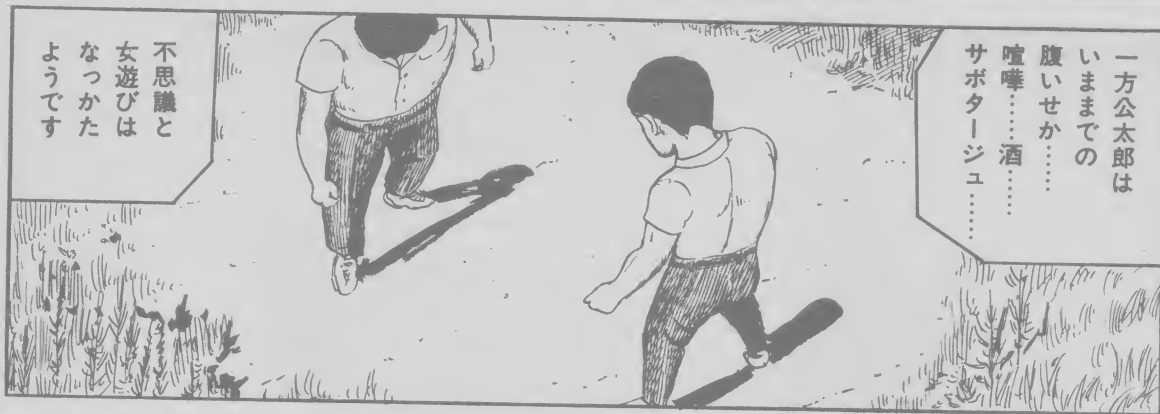
一方母親は
仕事に出始めて……
縫製工場

いわば罪の
つぐないを始めた
形です

一方公太郎は
いままでの
腹いせか……
喧嘩……酒……
サボタージュ……
不思議と
女遊びは
なっかた
ようです

そして停学になり
やっとのことで
高校だけは
卒業しました
が………
就職の
アテがありません

母ちゃん俺
東京に出るで
支送りしてくれや

というわけで
東京の阿佐ヶ谷と
いう所に
部屋を借りて……

高校時代の級友
たちと遊んでいる
うちにいつの間にか
劇画をかいて
投稿して………

元々………
絵が好きだった
のか………
劇画家のような
フリをし出した
らしい次第です

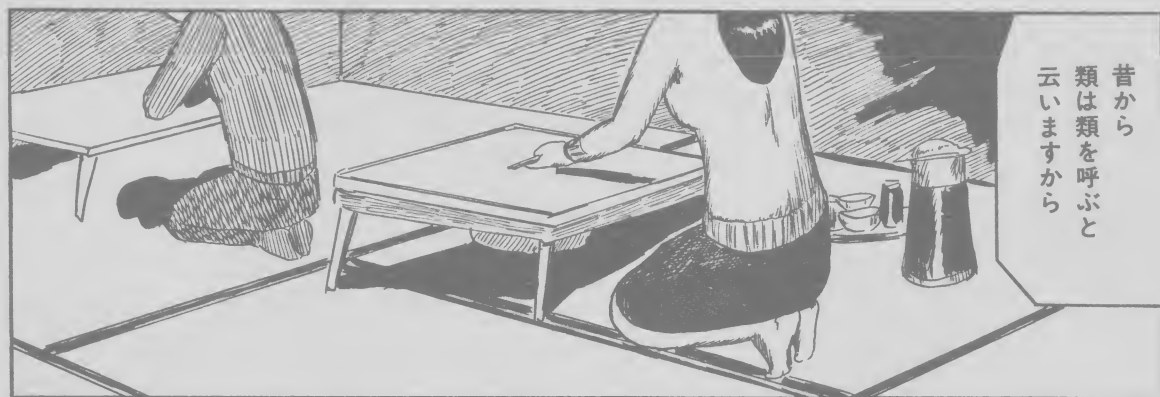
そして五年
たったころ………
恋をしました

生活力のないところへ
恋をしたわけですし
母親コンプレックスが
あるわけですから

丁度母親への
恨みが恋人相手に
爆発したかの
ようです

彼女は公太郎と
同郷でたまたま
彼の劇画を見て
遊びに来たもの
らしいのですが

それまで女には
おく手の公太郎が
急に彼女と同棲
するようになった
わけで………

彼女の方にも
何らかの交際の
要因があったの
でしょう

昔から
類は類を呼ぶと
云いますから

女はなあ
亭主のために
働いて………
亭主に
黙ってつくせば
いいんだよ

私は子供など
作りません

彼女は父親を早く
亡くして……
これも母親に対して
恨みを抱いていたようです

子供のころ
母親の仕事が
忙しく……
子供にはそれが
不満だったので
しょう

ある日私の部屋に
彼が来て……

おい山田
二万円借せよ
そのかわり
彼女を一晩
自由にしていい

そんな余分な
金はないよ……

おとうちゃん
ただいま
買物

あら
いらっしゃい
ませ
マーケット

一万や二万の金が
なかったわけでは
ありません
私は
厳しい気持ち
でした

お互い……
貧乏ひまなし
だな……

優子さんは
公太郎の子供を
二人堕ろして……
半年して

なぜか
彼から離れて
行きました

しばらくして

私は公太郎から
泣き虫金太の
話を聞きました

……昨日ふと
幼稚園のころを
思い出してね

あのころ……

子供ごころに
いつも神に
お祈りしていた

一体何を
祈っていたん
だろう

それ以外のことは
余り思い出せない
んだが……

私は公太郎が
自分の過去に
光を当て始めた
ことを知った

優子さん……
どうしてる?

優子にも悪いことをした………
離れていると愛情があるんだが………

近づくとすぐに醜悪な関係になってしまう

それは鏡だからだよ………

ひとは自分の魂の成長にとってもっともふさわしい環境をえらぶものだ………
そんな言葉を私は呑みこみました

こうやって

祈ることが

俺たち子供の仕事だった

神さま
よい仕事が
できますよう
に

そうだよ
はっはっは、

いずれはこの男も
子供を作り……
平和な環境を作る
努力をして
いくだろう……

私はそう祈った

なぜなら私もまた

彼と鏡の如き人生を
送っている者だから
である

終